

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社オテックス蒲郡工場	階数	地上2F
建設地	愛知県蒲郡市相楽町民成46-4他21	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	120 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年5月 予定	評価の実施日	2017年4月15日
敷地面積	30,532 m ²	作成者	小岩繁成
建築面積	20,834 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	13,228 m ²	確認者	石塚守



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準値: 3.0, 1.5, BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	72%
③上記+②以外の	72%
④上記+	72%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.5
Q2 サービス性能: 2.8
Q3 室外環境(敷地内): 2.8
LR1 エネルギー: 3.5
LR2 資源・マテリアル: 3.0
LR3 敷地外環境: 3.1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

音環境	1.8
温熱環境	2.2
光・視環境	2.2
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	1.7
耐用性	2.8
対応性	4.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	1.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	3.0
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	4.1
地域環境	2.2
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>24.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	24.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	24.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境							2.5
1 音環境							1.8
1.1 騒音			1.8	0.15			
1.2 遮音			3.0	0.40			
1 開口部遮音性能			1.0	0.40			
2 界壁遮音性能			1.0	0.60			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	0.40			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音			1.0	0.20			
2 温熱環境			2.2	0.35			2.2
2.1 室温制御			2.2	0.50			
1 室温			3.0	0.38			
2 外皮性能			3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性			1.0	0.38			
2.2 湿度制御			1.0	0.20			
2.3 空調方式			3.0	0.30			
3 光・視環境			2.2	0.25			2.2
3.1 昼光利用			3.0	0.30			
1 昼光率			3.0	0.60			
2 方位別開口							
3 昼光利用設備			3.0	0.40			
3.2 グレア対策			1.0	0.30			
1 昼光制御			1.0	1.00			
3.3 照度			2.0	0.15			
3.4 照明制御			3.0	0.25			
4 空気質環境			3.8	0.25			3.8
4.1 発生源対策			5.0	0.50			
1 化学汚染物質		全ての建材がF☆☆☆☆	5.0	1.00			
4.2 換気			2.3	0.30			
1 換気量			3.0	0.33			
2 自然換気性能			3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.33			
4.3 運用管理			3.0	0.20			
1 CO ₂ の監視			1.0	0.50			
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙になっている	5.0	0.50			
Q2 サービス性能							2.8
1 機能性							1.7
1.1 機能性・使いやすさ			1.7	0.40			
1 広さ・収納性			1.0	0.40			
2 高度情報通信設備対応			1.0	0.33			
3 バリアフリー計画			1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性			2.0	0.30			
1 広さ感・景観			3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース			2.0	0.33			
3 内装計画			1.0	0.33			
1.3 維持管理			2.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保			2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性			2.8	0.31			2.8
2.1 耐震・免震			3.0	0.48			
1 耐震性			3.0	0.80			
2 免震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数			2.9	0.33			
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			4.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		② 金属板を使用している	2.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.23			
2.4 信頼性			2.2	0.19			
1 空調・換気設備			1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3 電気設備			3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法			1.0	0.20			
5 通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.3	0.29			4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31			
1 階高のゆとり		天井高さ8050~11550	5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 475/12473=0.03	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	5.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.2	0.38			
1 空調配管の更新性			3.0	0.17			
2 給排水管の更新性			2.0	0.17			
3 電気配線の更新性			3.0	0.11			
4 通信配線の更新性			3.0	0.11			
5 設備機器の更新性		仮設スペースが確保できる	4.0	0.22			
6 バックアップスペースの確保		バックアップ設備のためのスペースが確保されている	4.0	0.22			

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		Q3 室外環境(敷地内)						-	0.39
1 生物環境の保全と創出	独自③			3.0	0.30		-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.7		5.0	0.02		-	5.0	
2 自然エネルギー利用		屋根に採光・換気用の窓が設置されている		4.0	0.28		-	4.0	
3 設備システムの高効率化				5.0	0.42		-	5.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI0.7以下		5.0	1.00		-		
集合住宅の評価(3c)							-		
4 効率的運用				1.0	0.28		-	1.0	
集合住宅以外の評価				1.0	1.00		-		
4.1 モニタリング				-	-		-		
4.2 運用管理体制				1.0	1.00		-		
集合住宅の評価							-		
4.1 モニタリング							-		
4.2 運用管理体制							-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0	
1.1 節水				3.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63		-	2.9	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自		躯体と仕上りが容易に分別可能	5.0	0.24		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22		-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68		-		
1 消火剤				-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50		-		
3 冷媒				2.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:72%	4.1	0.33	-	4.1
2 地域環境への配慮				2.2	0.33		-	2.2	
2.1 大気汚染防止				1.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減	独自			-	-		-		
2 汚水処理負荷抑制				-	-		-		
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.50		-		
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.50		-		
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-		-		
1 騒音	独自			-	-		-		
2 振動	独自			-	-		-		
3 悪臭				-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67		-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制							-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制				3.0	0.33		-		
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上る光への対策				3.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-		

重点項目スコアシート

株式会社オディックス蒲郡工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:24.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア= $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社オティックス蒲郡

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>機械ラインの配置を効率的に行える工場を確保し、他室においては合理的な配置計画とした。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>作業員・事務員共に業務上支障のない環境状態となるような計画とした。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>維持管理が容易な仕上げを採用している</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外周部の緑地は現況のままとし、維持管理に努めるものとする。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>未使用時の消灯など従業員の意識付けの徹底を行うものとする。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建屋においては機能上不要なものは採用せず、簡素なものとする。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建屋形状および色彩において落ち着いたものとし、周辺環境を損なわないものとする。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>